

# 1. 学校評価総括

建学の理念	「心身ともに健康で、使命感を持つ、誠実な人間を育成する」	
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明朗で知性溢れる人の育成</li> <li>2. 不屈の精神をもって、使命を全うする人の育成</li> <li>3. 自己を確立しつつ、社会性豊かな人の育成</li> <li>4. この世に生をうけた幸福を知る人の育成</li> </ol>	
これまでの成果と課題	<p>中学部では、1、2年で基礎学力の習得、3年で高校内容の導入段階の学習とキャリア教育を行っている。基礎学力の習得に際しては、到達度テストなどを利用したきめ細やかな指導、特に放課後の補習と個別指導を心掛けてきた。また、宿題を出すなどの基本的な生活・学習習慣に関わることに時間を費やした。しかし、この丁寧さが、生徒の自主性を奪っている可能性も示唆された。そこで、平成29年度から実施予定のシラバスと60分授業への校時変更を見据え、自立的学習態度の確立を組織的に行うことを意識的に行った。その結果、少しずつではあるが、生徒の学ぶ意欲が上昇し始めた。生活面ではまだ、他人に責任転嫁する他責癖の強い生徒たちもあり、よりきめ細かな生徒指導を今後展開していきたいと考える。</p> <p>高等部の進路指導においては、従来通り、進路説明会や保護者集会など多くの機会を設定して、職業をイメージさせながら進路としての大学を考えるように指導した。とはいえ、多様化した進路に対応し切れていない。今後は、部活動の活性化やキャリア教育のさらなる充実、自分と社会との関わりを自律した自己として考える機会を増やすことで、今以上に進路を身近なものにさせたい。以上の成果と見えてきた課題から、平成29年度の新たなシラバスのもと、60分授業への校時変更によるコマ数の増加を個々の生徒の潜在能力を引き出すことに傾注するとともに、教育内容の精選を図り、生徒のさらなる学力向上に努めたい。</p>	
	具体的目標	総合評価
国際人を育てる教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 留学制度の充実</li> <li>2. 進路指導の充実</li> <li>3. 学力をつける授業の充実</li> <li>4. 国際交流制度の充実</li> <li>5. 卒業生・在校生の満足度向上</li> <li>6. 施設・設備の充実</li> </ol>	<p>一学期は、全学年を通じて、落ち着いた生徒、意欲の低い生徒への対応を行った。その結果、年度後半からは、意欲の低かった生徒も学習に取り組み始めた。生活指導面においては、保護者に気を遣いすぎ、指導が後手に回ってしまうことがあった。保護者は共に生徒を育てていく協力者であり、その意味で本来の「三位一体教育」に立ち返り、遠慮なく厳しく指導していくことを確認した。</p>
入学志願者・入学者の安定確保	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六年一貫教育の充実のための内部進学生支援の充実</li> <li>2. 外部児童・生徒募集の充実</li> </ol>	<p>また、多様化した進路への対応として、平成29年度からは、70分授業を60分とし、授業コマ数を増やすことで、様々なタイプの生徒に対応した授業を展開していく。さらに、放課後クラブの充実も図る。</p>
教育の意識改革・行動改革の実施	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科会議の充実</li> <li>2. 教員組織の改革</li> <li>3. 学校評価の導入</li> <li>4. 教員評価制度の導入と研修の充実</li> </ol>	<p>中学1、2年では基礎学力の習得を、中学3年～高校2年ではキャリア教育を通じての進路学習を、高校3年では大学進学等の進路保証をさらに充実させていく。そのため時間割の再編・授業編成・シラバスの改善に重点をおく。また、教師間の情報の共有をさらに図るため、学年会議、教科会議の時間を十分にとれるように校時の工夫も行いたい。</p>